

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤)

(例1)

薬剤名: **□□1キ口粒剤**

区分: **一発処理剤**

県名	実施場所	区別	土質 減水深 cm/日	作期 植代月日 田植月日 田植手段	稚苗中苗 直播の別 苗代様式 苗丈葉令	初期除草剤			中・後期除草剤			処理時の雑草 (主要雑草名)	
						薬剤名	処理時期	薬量	薬剤名	処理時期	薬量	初期除草剤処理時	後期除草剤処理時
東京都	普及センター名(〇〇市)	実験	沖積 壤土	早期 植代 5月1日 田植 5月8日 機械移植	稚苗 箱育苗 13cm 2.4l	□□1キ口 粒剤	5月15日 (±0) 田植同時	1kg /10a				ハビエ ホタルイ コナギ オモダカ	始 始 未発生 未発生
						××1キ口 粒剤	5月15日 (+0) 全面 手播き	1kg /10a				ハビエ ホタルイ コナギ オモダカ	始 始 未発生 未発生

試験を実施した市町村も記入して下さい

処理時期欄に散布方法を具体的に記入して下さい

移植日を0とした日数を記入して下さい。なお、田植同時処理は「±0」とし、移植直後処理「+0」と区別して下さい。

ここは必ず、記入例と同じ幅の隙間を空けて下さい。

草種名を記入して下さい。

田植同時処理の場合、処理時水深は「処理時の水深→入水後の水深」を記入して下さい。

移植日を0とした日数を記入して下さい

(例2)

薬剤名: **△△△ジャンボ剤**

区分: **初期剤**

県名	実施場所	区別	土質 減水深 cm/日	作期 植代月日 田植月日 田植手段	稚苗中苗 直播の別 苗代様式 苗丈葉令	初期除草剤			中・後期除草剤			処理時の雑草 (主要雑草名)	
						薬剤名	処理時期	薬量	薬剤名	処理時期	薬量	初期除草剤処理時	後期除草剤処理時
東京都	普及センター名(〇〇市)	実験	洪積 壤土	植代 4月25日 田植 4月30日 機械移植	中苗 箱育苗 15cm 3.5L	△△△ ジャンボ	5月1日 (+1) 畦畔から 投入	10個 (500g) /10a	△△1キ口 粒剤	5月25日 (+25) 散粒機で 全面散布	1kg/10a	ハビエ その他	未発生 未発生
						〇〇〇 フロアブル	5月1日 (+1) 畦畔から 手振り	1kg/10a	△△1キ口 粒剤	5月25日 (+25) 散粒機で 全面散布	1kg/10a	ハビエ その他	未発生 未発生

*** 注意 ***
列の挿入・列幅の変更は行わないで下さい。
ただし、行の挿入・行の高さの変更は構いません。

特別な理由でどうしても剤の効果、薬害の判定が出来なかった場合は、総合評価欄に一を、また備考欄にその理由を記入して下さい。

* 登録適用外の雑草は()でくり総計から除く。 ** 総合評価の欄 A: 除草効果・薬害の面で普及風乾重か生体重かを明記する。 B: 普及にあたって更に検討する必要がある。無処理区での主要発生雑草も記入。乾物重か生体重のいずれかを必ず記入して下さい。 - : その他(特別な理由により判定できない場合)

発生状況 草丈・葉令	除草効果(草種別残草量 g/m ²)						薬害		総合 評価 点	備考 (特記事項)
	ハビエ	カヤツリグサ類	一年生 広葉	ホタルイ	マツ バイ	多年生 雑草	総計	症状 程度		
中・後期除草剤処理時	0.2	0	0	0	0.4	0.7g	生育 抑制	100%	A	微程度の生育抑制が みられたが問題ない 標高 90m 圃場面積 (30a) 処理時水深 (0→5cm) 雑草調査日: 6月22日 (+45)
	0.2	0	コナギ0.2 アゼナ0.1	0	0.6	1.2g	なし	100%		

特に目立つ雑草があれば、この欄に記入して下さい。

登録適用外の雑草でも、発生が目立つ場合は、()で記入して下さい。

風乾重か生体重のいずれかを必ず記入して下さい。

圃場の標高が確認できる場合は、標高を記入して下さい。

発生状況 草丈・葉令	除草効果(草種別残草量 g/m ²)						薬害		総合 評価 点	備考 (特記事項)
	ハビエ	カヤツリグサ類	一年生 広葉	ホタルイ	ウリカフ	多年生 雑草	総計	症状 程度		
ハビエ 4cm 1.5L コナギ 2cm 2L ハラオモダカ 2cm 2L ホタルイ 2cm 2L	0	0.5	0	0.5	0.3	1.3g	なし	100%	A	標高 50m 圃場面積 (30a) 処理時水深 (5cm) 雑草調査日: 6月24日 (+55)
ハビエ 5cm 2L コナギ 2cm 2L ハラオモダカ 2cm 2L ホタルイ 2cm 2L	0	0.3	ヒメソバハギ 0.3	0.2	1.5	2.3g	なし	100%		

無処理区で発生した雑草を記入して下さい。

圃場面積、処理時水深を記入して下さい。

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤 問題雑草一発処理剤)

* 登録適用外の雑草は()でくり総計から除く。
風乾重か生体重かを明記する。
無処理区での主要発生雑草も記入する。

**** 除草効果(問題残草一発処理)の欄

指数	圃場あたりの発生程度	問題雑草の状態
無	無 発生が見られない	
少1	少 発生は少ない (1~9株/圃場程度)	1 生育は強く抑制されている
少2		2 生育抑制、生育の遅れがみられる
少3		3 雑草への影響がほとんど見られない
中1	中 発生は中程度 (10~50株/圃場程度)	1 生育は強く抑制されている
中2		2 生育抑制、生育の遅れがみられる
中3		3 雑草への影響がほとんど見られない
多1	多 発生は多い (51株/圃場以上)	1 生育は強く抑制されている
多2		2 生育抑制、生育の遅れがみられる
多3		3 雑草への影響がほとんど見られない

** 総合評点の欄 A: 除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない
B: 普及にあたって更に検討する必要がある
-: その他(特別な理由により判定できない場合)

*** 雑草調査日

- 1回目 通常の調査(抜き取り調査)、問題雑草一発処理の調査(観察調査)
- 2回目 問題雑草一発処理の調査(観察調査)

(例)

薬剤名: □□1キ口粒剤

区分: 一発処理剤

県名	実施場所	区別	土質 減水深 cm/日	作期 植代月日 田植手段	稚苗中苗 直播の別 苗代様式 苗丈葉令	初期除草剤			中・後期除草剤			処理時の雑草 (主要雑草名・)	
						薬剤名	処理時期	薬量	薬剤名	処理時期	薬量	初期除草剤処理時	
東京都	普及センター名(〇〇市)	実験 慣行	1.5 cm/日	早期 植代 5月5日	稚苗 箱育苗 13cm	□□1キ口 粒剤	5月18日 (+10)	1kg /10a				ノビエ 始 ホタルイ 始 コナギ 未発生 オモダカ 未発生	
				田植 5月8日	2.4L		5月18日 (+10)		1kg /10a			ノビエ 始 ホタルイ 始 コナギ 未発生	
				機械移植		××1キ口 粒剤						オモダカ 未発生	

発生状況 草丈・葉令)	除草効果(草種別残草量 g/m ²)						除草効果 (問題雑草一発処理)	薬害		総合 評点	備考 (特記事項)
	ノビエ	カヤツリグサ類	一年生 広葉	ホタルイ	多年生 雑草	総計		症状 程度	収量比 対償行		
中・後期除草剤処理時	0.2	0	0	0	クログワイ 0.1	生重 0.7g	オモダカ 1回目 中2 2回目 少1	生育 抑制	100%	A	微程度の生育抑制が みられたが問題ない 標高 30m 圃場面積 (30a) 処理時水深 (5cm) 雑草調査日: 1回目 6月22日(+45) 2回目 7月27日(+80)
	0.2	0	コナギ0.2 アゼナ0.1	0	クログワイ 0.1	1.2g (58%)	オモダカ 1回目 中2 2回目 少1	なし	100%		

問題雑草一発処理剤の試験で、
対象草種の調査を記入して下さい。

観察調査の結果を
指数で記入して下さい。

(無処理区での主要発生雑草:

* 注意 *

列の挿入・列幅の変更は行わないで下さい。
ただし、行の挿入・行の高さの変更は構いません。

報告書（水稻除草剤）記入項目の説明

実施場所

- ・ 「設置普及所」「実施市町村名」を記入する。
- ・ 市町村名は（ ）で記入する。

土質・土性・減水深

- ・ 「土質」「土性」「減水深」を記入する。

作期・植代月日・田植月日・田植手段

- ・ 都府県で作期の基準がある場合は、それに従って作期を記入する。
- ・ 直播栽培では、播種日を記入する。

稚苗中苗・直播の別・苗代様式・苗丈葉齢

- ・ 移植栽培では、苗の種類、育苗方法、移植時の苗の草丈および葉齢を記入する。
- ・ 直播栽培では、直播の種類（湛水・乾田の別、土中播種（カルパーコーティング）、表面播種（鉄コーティング）など）播種方法、入水日を記入する。

処理時期

- ・ 薬剤の「処理月日」「移植後日数」「散布方法」を記入する。
- ・ 移植後日数について、移植直後の処理（+0）と田植同時処理（±0）を区別して記入する。
- ・ 散布方法の記入例は、下記表を参考にして下さい。これ以外の表現でも構いません。

ジャンボ剤	フロアブル	顆粒水和剤	少量拡散型粒剤	粒剤	乳剤・液剤・水溶剤等
畦畔から投入	全面手振り	全面手振り	周縁部に手散布	手散布	土壌混和
畦畔と中1列から	畦畔から手振り	畦畔から手振り	周縁部に散粒器	手回し散粒器	動力噴霧機
	畦畔と中1列	畦畔と中1列	畦畔から動散	電動散粒器	加圧式噴霧器
	水口	加圧式散布器	全面手散布	動力散粒機	動噴スポット
	田植同時	動散，専用ノズル	ラジコンヘリ	田植同時	加圧式噴霧器
	加圧式散布器 ラジコンヘリ	ラジコンヘリ			スポット

薬量

- ・ 水に希釈して散布する場合は 10 a あたりの散布液量も記入する。

処理時の雑草発生状況

- ・ 雑草の草種名、発生状況または草丈・葉齢を記入する。

除草効果

- ・ 草種別に 1 m²当りの残草量（重量）を記入する。重量が 0 ではないが四捨五入すると 0 になる場合は「t」（トレース trace）と記入する。
- ・ 残草個体の草高を併記しても良い。
- ・ 一年生広葉および多年生雑草は、草種名も記入する。
- ・ 対象外の草種については（ ）を付けて記入する。ただし、対象外の草種の重量は総計に含めない。
- ・ 残草量に関して、乾物重および生体重の別を記入する。
- ・ 無処理区で発生した雑草は、表の下部に記入する。

薬害

- ・ 薬害程度については、以下の基準に従って評価する。
 - 無：害徴が認められないもの
 - 微：害徴が認められるが、薬害による減収はないと推定されるもの
 - 小：害徴が認められ、薬害による減収率 5%以下と推定されるもの
 - 中：害徴が認められ、薬害による減収率 6～15%と推定されるもの
 - 大：害徴が認められ、薬害による減収率 16%以上と推定されるもの

総合評点

- ・ 除草効果、水稻への薬害等の調査・観察の結果より、普及性を総合的に評価する。
- ・ 総合評点は、下記を基準とする。
 - A：除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。
 - B：普及にあたって更に検討する必要がある。
 - －：その他（天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合）

備考（特記事項）

- ・ 残草量が多い場合、残草した場所（圃場全体、水口付近、田面が高い場所など）、残草状況などについて記入する。
- ・ 問題となる薬害症状がみられた場合、薬害が生じた範囲、薬害程度、回復状況などについて記入する。
- ・ 気象条件、水管理で特別な事があれば記入する。
- ・ 雑草調査後、残草個体を除草剤で防除した場合は、農薬名および散布月日を記入する。
- ・ 総合評点が「－」の場合、その理由を記入する。
- ・ 「標高」は、確認出来る場合のみ記入する。
- ・ 「圃場面積」「処理時水深」「雑草調査日および移植後日数」を記入する。
- ・ 処理時の水深が分かる場合は記入する。田植同時処理など処理後すぐに入水した場合は、（0cm→5cm）と処理時と入水後の水深を記入する。